

④3市道花園町線 無電柱化・道路空間再配分事業

受賞機関 松山市

キーワード ソフト施策、歩行者優先、市民との協働、賑わい創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

愛媛県松山市内で官民が連携して既存街路（W=40m）の「道路空間の再配分」を行い、車道を縮小して広がった空間を歩行空間等にシフトするとともに、沿道建物もデザインガイドラインに基づく整備をした取組み。

行政・民間・まちづくりの専門家による検討組織が数年にわたり空間再配分の議論を重ねて、車線減少・歩道拡幅を含む道路空間再構築を実施した点や、同整備を契機に地元主体による新たなまちづくり組織が立ち上がり、沿道で継続的にイベントが実施され、継続的な効果が確認されている点が評価された。

1. はじめに

市道花園町線は市中心部に位置し、松山市駅と「松山城」を有する城山公園を結び、市内最大の幅員（W=40m）を有する街路である。

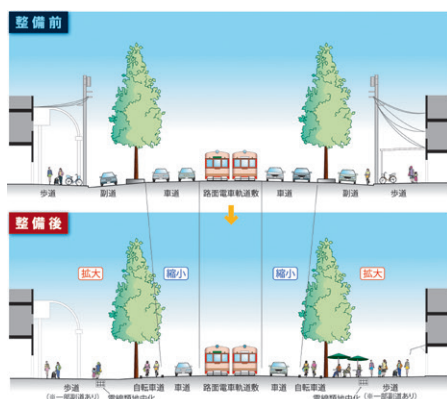
公園内のスポーツ施設の郊外移転や大型ショッピングモールの立地等により、通行量の減少や空き店舗の増加が進み、自動車もピーク時の半分まで減少し、空間の在り方が問われていた。

本事業では、「歩いて暮らせるまち松山」を象徴する新たなシンボルロードとして、「道路空間の再配分」の手法を用いたりリニューアルに取り組んだ。

2. 事業の概要

事業は、松山市が街路整備（無電柱化・道路空間再配分）を、地元商店街が沿道建物の景観（ファサード）整備を行うなど官民連携で取り組んだ。

道路空間の再配分では、片側2車線の車道を1車線に縮小し、それによって生まれた空間を自転車道や歩道に再配分することで、安全・安心な空間を創出した。



道路空間再配分（イメージ）

実施に際しては、まちづくりの専門家や商店街、地域住民、関係者が参画する検討組織で議論を重ね、再配分後の交通影響を検証する社会実験や、模型・CG・交通シミュレーション等のツールを活用しながら、数年を経て合意形成に至った。

景観面では、松山城など史跡景観へ続くシンボルロードに相応しく、自然石舗装や鋳鉄製の照明灯、ウッドデッキやベンチには県内産ヒノキを使用し、落ち着いた温かみのある空間を創出。町名の由来が松山藩主の花畑があったことにちなみ、約80種類に及ぶ四季折々の植栽を配置した。

商店街が行うファサード整備では、外壁の色彩や素材、看板の大きさ等に関する基準（デザインガイドライン）を定め、統一感のある景観を形成した。

3. 事業の成果

整備後は、歩行者通行量の増加や地価上昇、空き店舗の減少など、地域活性化への様々な効果が現れている。

また整備を契機に、これまで交流がほとんどなかった東西商店街が連携し、新たなまちづくり組織とイベントが生まれたほか、市と地元商店街が協定を締結し、地元が主体となって除草や水遣りが実施されるなど、良好な景観保全に向けた仕組みも構築された。



地元商店街主催のマルシェイベント

4. おわりに

かつての賑いを失いつつあった通りが、車から歩行者や自転車といった「ゆっくり」の交通を中心とした街路に再構築され、新たに生まれ変わった。今後も、変化する社会環境や地域特性に配慮しながら、地域住民をはじめとする関係者とともに、市民が誇れる都市づくりを進めていきたい。

賛助会員 復建調査設計(株)